



# 阿久根文化財

AKUNE CULTURAL PROPERTY GUIDE MAP

## ガイドマップ

阿久根市教育委員会



# 県指定文化財関係

阿久根市内には、  
現在8件の鹿児島県指定の  
文化財があるよ



## 1 かんめ 神舞 (波留・南方神社)

県指定  
無形民俗  
文化財

藩政時代8年ごとの庄屋の交代期に行われた豊年祭り  
で、現在も引き継がれている。

この舞は幼児の露払いに始まり、瓶舞・弓舞・剣舞・  
田之神舞・将軍舞と続き、鬼神舞で終わる七つの舞か  
ら成っている。特に最後の鬼神舞は、同社に伝わる鬼  
神面をつけた勇壮なものであり、舞のクライマックスで  
鬼神の面が“笑う”と言われている。

祭りは8年ごとの旧暦7月28日に行われ、近年では  
令和4年8月28日に開催された。

※舞に使用される『鬼神面』『翁面』は市指定文化財。



## 2 ハマジンチョウ (潟)

県指定  
天然  
記念物

亜熱帯地方に生える常緑の灌木で、九州本島では最北  
限の自生地として県の指定を受けた。11月から4月頃まで  
紫色の花が咲く。

近くで発見された鳥越古墳群とともにまじんちょう公園  
内で保護されている。



## 3 あくねほう 阿久根砲 (風テラスあくね)

県指定  
有形  
文化財

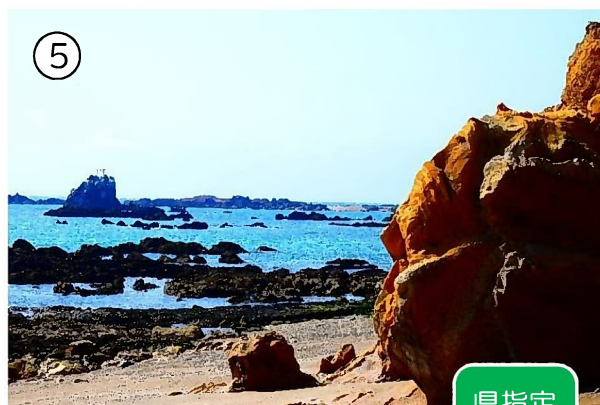
砲身 267.5cm、口径 15.2cm の青銅製の大型砲で、砲身にみ  
られる紋章などから16世紀頃のポルトガルもしくはスペイン製と  
推定され、来航した船の備砲であったと考えられる。昭和32年  
(1957年)、浜町の海岸で発見されたことから「阿久根砲」と呼  
ばれる。



## 4 わきもとこふんぐん いとわりぶちこふんぐん 脇本古墳群(糸割渚古墳群)(上原)

県指定  
史跡

箱式石室2基からなる古墳群。6世紀頃のものとして推定さ  
れる。鉄剣・鉄鏃等が確認されている。出土品は市郷土資  
料館に展示されている。市指定文化財史跡の新田が丘古  
墳群①と合わせて脇本古墳群という。



## 5 うしのはまかいがん 牛之浜海岸(牛之浜)

県指定  
名勝

東シナ海に面する奇岩奇礁の乱立する海岸で、海の向こ  
うに甌島を望む景勝地である。文政元年(1818年)には、  
史論家、儒者として知られる頼山陽が絶賛し、『阿嶋嶺』の  
詩を詠んでいる。また、海岸に露出する岩石は、緑色凝灰  
岩や泥岩、砂岩の層がいくつも複雑にからみあったメラ  
ンジ堆積物として美しい文様が見られ、地質学的にも貴重な  
地域であるといわれている。

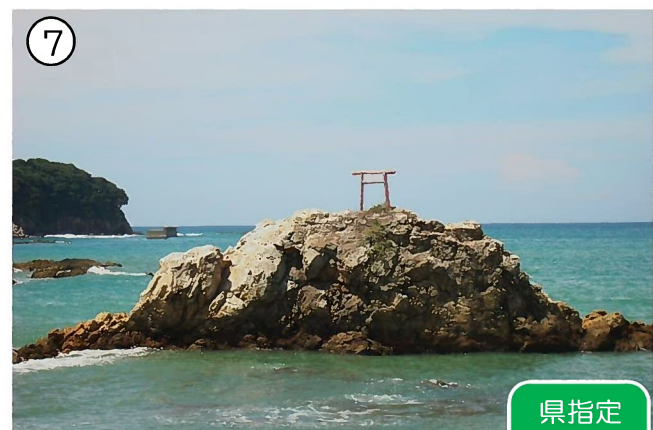
県指定  
天然  
記念物



## 6 カスミサンショウウオ(阿久根市内)

カスミサンショウウオは普段は平野の周辺や丘陵地に生息し、産卵の時に水溜りなどに移動してくるもので、成長すると12~13 cm 程の大きさになる。

カスミサンショウウオは日本固有の種であるが、鹿児島県北西部に生息するこの種は、日本最南限の種として貴重なものとなっている。



7

## 7 ひかるぜ ごしきはま 光礁と五色浜(戸柱)

県指定  
天然  
記念物

光礁と五色浜のチャート層は、県本土で最も古い地層である。また、このチャート層は大洋底に蓄積した地層が海溝部で陸側に剥ぎ取られた堆積物でプレートテクトニクスの概念を理解する上で貴重なものである。



8

## 8 さいとくじさんもん しょうろうつき 西徳寺山門(鐘楼付)(脇本馬場)

県指定  
有形  
文化財

西徳寺山門は、大正2年(1913)年に建設された二重二層の山門で、本寺では「楼門」と呼ぶ。

彫り物など各部の細部意匠も優秀であり、二層目を鐘楼とする県内唯一の楼門形式であることから大変貴重である。

# 市指定文化財



市内には、18 件の  
阿久根市指定の文化財が  
あるんだよ

9

## 9 はちごう 八郷のヘゴ(八郷)

市指定  
天然  
記念物

熱帯・亜熱帯に産する木性シダで、県下では根占・内之浦・甕島などの自生地より少しおくれた昭和初期に確認され、本土最北限の自生地として脚光を浴びたものである。



市指定  
史跡



10 わきもとかまあと 脇本窯跡(鳩之浦西)

南九州で初めての本格的磁器窯として安永年間に創設されたが、やがて廃絶。その後、これを引き継いで薩摩川内市の平佐に再興されたものが平佐焼である。  
脇本窯については不明な点が多かったが、昭和47年(1972年)の調査により、4個の燃成室をもつ肥前式連房登窯であることが明らかになった。



11 わきもとこふんぐん しんでん おかこふんぐん 脇本古墳群(新田が丘古墳群) 市指定史跡

横穴式石室2基、箱式石室1基、地下式板石積石室1基からなる古墳群。5～6世紀頃のものとして推定される。  
県指定史跡系割渕古墳群④と合わせて脇本古墳群という。



12 てんぐやま まがいぶつ 天狗山の摩崖仏(馬見塚) 市指定有形民俗文化財

天狗山中腹にある三条の岩石で中央に梵字で不動明王を表す「カンマーン」が記されている。また、「正徳三天五月吉日敬白」などの文字も読まれる。  
極めて険しい山であり、修験者たちの修行の場であったと言われ、稲の害虫の退散にも御利益があるとして尊崇されていた。



13 くうじゆんほういんぞう 空順法印像(中央公園) 市指定有形民俗文化財

正徳・享保の頃(1710年代)、毎年のように大火が続いた阿久根では空順法印を招き火留めの祈禱を行った。法印は、戸柱海岸で七日間の断食・水行を行ったところ、その法力によって阿久根の大火は絶えたと伝えられる。  
法印とは僧の最高位の名称である。

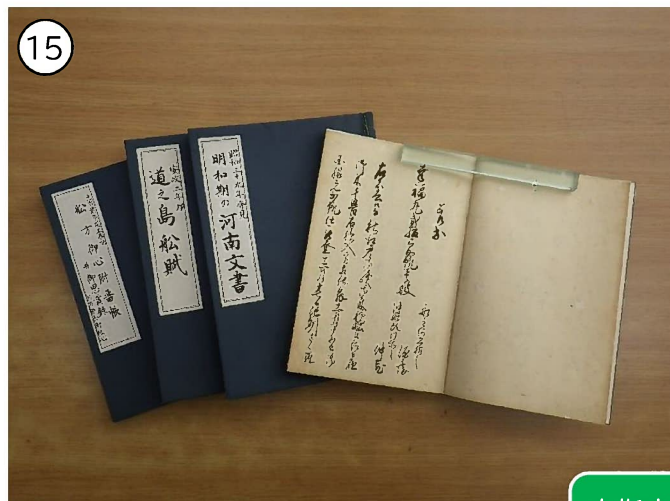


14

14 みなみかたじんじや いしとりい  
**南方神社の石鳥居(波留)** 市指定  
有形  
文化財

折口伊兵尉重芳が、寛永の末頃(元年が1624年)に阿久根に移住し、焼酎造が成功したことを、神に感謝して寄進した鳥居である。

伊兵尉の造った焼酎は薩摩藩主島津光久公に喜ばれて「阿久根諸白」の名をいただいたが、この鳥居こそが阿久根焼酎の由来を物語る記念碑である。

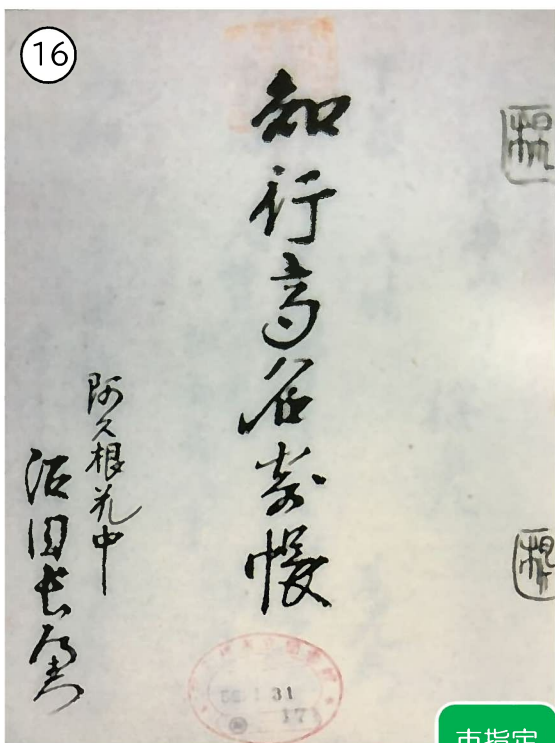


15

15 かわみなみぶんしよ  
**河南文書(郷土資料館)** 市指定  
古文書

島津藩の御用商人として幕末に活躍した河南家六代、七代源兵衛の残した海運を中心とした一連の文書である。

当時の海運事情などを知る貴重な資料とされている。



16

16 ぬまたぶんしよ  
**沼田文書(山下)** 市指定  
古文書

一向宗を摘発する「一向宗訴人」であった沼田家の一向宗関係の資料。

江戸時代、薩摩藩は一向宗(浄土真宗)を禁止しており、当時の一向宗弾圧を知る貴重な資料である。写本が郷土資料館にある。



17

17 とりごえこぶんぐんいちごうふんせきしつ  
**鳥越古墳群1号墳石室(潟)** 市指定  
有形  
文化財

平成元年(1989年)、潟区の土地区画整理中に発見され、はまじんちょう公園内に移設された竪穴式石室。

4世紀中頃のものとして推定され、鹿児島県内では大和朝廷の影響を受けた最古の高塚古墳である。

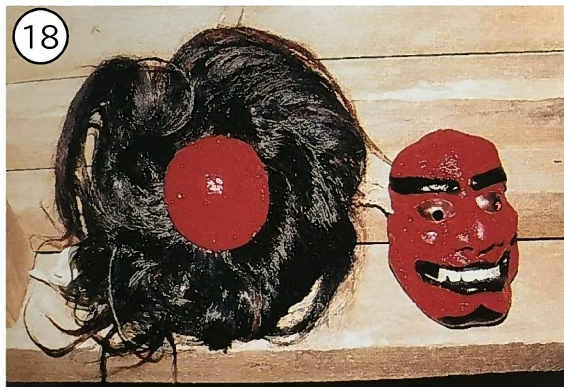
同一丘陵から南九州独自の墓制である地下式板石積石室が6基、その他の墓制2基も確認されている。

18 19 20 21

みなみかたじんじゃ すわじんじゃ ほうもつ  
**南方神社(諏訪神社) 宝物(波留)**

市指定  
 有形  
 文化財

南方神社には、古くから貴重な文化財が保存されている。  
 「神舞」に使用される「鬼神面」⑱は宝暦年間頃(元年は1751年)の制作と言われ、舞のクライマックスにはこの面が「笑う」と言い伝えられている。同じく「翁面」⑲も「神舞」に使用される面である。2対の素文鏡⑳は、13～15世紀頃の、元～明の鏡とみられる。一対半ある木造の狛犬㉑は、中世(12世紀～16世紀で鎌倉・室町時代)の頃の作品とみられる。



もくぞうあみだによらいぞう  
**22 木造阿弥陀如来像(上野・蓮華寺)**

市指定  
 有形  
 文化財

鎌倉時代に制作された阿弥陀如来像である。後世に補修されているが、鹿児島県では希少な中世の仏像である。  
 蓮華寺には、他にも貴重な仏像が残されている。



くぼした た かみぞう  
**23 久保下の田の神像(山下)**

市指定  
 有形民俗  
 文化財

豊作を祈る石像で、阿久根市内には、約60体の田の神像がある。中でもこの「久保下の田の神」は、大変御利益があり、明治時代に「タノカンサマ オットイ」の風習にあい、御利益を授けて感謝され、返されたとのいわれがある。本体は毎年旧暦の十月にお化粧直しをされている。



24

市指定  
有形  
文化財

24 わきもとこふんぐんしゆつどいぶつ  
脇本古墳群出土遺物(郷土資料館)

指定史跡である脇本古墳群から出土した鉄剣、鉄刀、鉄鏃、土器などの副葬品であり、郷土資料館に展示されている。



25

市指定  
有形  
文化財

25 こきはらさんらく はか  
小木原三楽の墓(大尾)

本名を庄兵衛(莊兵衛)といい、弓・銃・馬術の達人。特に馬術は藩内でも屈指の腕前であり、また、馬の調教にも長けていた。

これらの武芸のほか、造園、製茶法などを習得して茶業振興に貢献した。

晩年は、馬術・製茶・造園の三つを楽しみとしたことから「三楽」と号し、その余生を大尾で過ごした。



26

市指定  
史跡

26 まつきこうあん てらしまむねのり  
松木弘安(寺島宗則)旧家(鳩之浦東)

明治維新の立役者の一人でもある「電気電信の父」松木弘安(寺島宗則)が幼少期を過ごした旧家である。当時の郷土の暮らしを知る上で大変価値がある建築物である。

## 史跡関係

27 つぐちばんしょあと  
津口番所跡(脇本・倉津)

薩摩藩が港に出入りの船を監視し、積荷等や乗員を検査するために藩内24ヶ所に設置した番所が津口番所で、阿久根には脇本と倉津に置かれた。特に脇本の番所は、藩境に近く、東シナ海側で領内外から出入りの船は、すべてここで調べを受けることとなっていた。

27





28 たしろこうざんあと  
**田代鉱山跡(尾原)**

田代周辺は江戸時代から銅の産出が行われ、断続的に昭和30年代まで続けられた。写真は鉱山跡の様子を示すものである。



30 ほんどぼうぎょじんちあと  
**本土防衛陣地跡(脇本)**

太平洋戦争末期の昭和20年(1945年)、日本軍は、連合軍上陸に備え九州南部に多くの部隊を配置し敵の上陸に備えた。ここは、その時の米軍上陸に備えた陣地跡の一部である。



29 はやししょうさせんしち  
**林少佐戦死の地(折口)**

昭和20年(1945年)4月21日、旧海軍最強の名をほしいままにした第343航空隊の戦闘407隊長林喜重大尉は、出水上空付近で敵B29と交戦、一機撃墜するも自らも被弾、ここ折口の海岸に墜落戦死した。現在供養の碑が建つ。

## 石塔類

31 あくねし くようとう  
**莫祢(阿久根)氏の供養塔(山下)**

1120年頃から、実質的に阿久根の領主であった莫祢(阿久根)氏の初代から3代目までを祀る供養塔と伝わる。

しかし、五輪塔には納骨孔があり、火葬の跡が見られる。このことから、「阿久根城の一部であるこの地(阿久根氏居館跡・菩提寺)の五輪塔に葬られた」と古文書に記される南北朝期の阿久根氏9代・良忠らの墓である可能性もある。





32

ゆ だ け せ き と う ぐ ん  
湯田家石塔群(尻無)

湯田家は、莫祢(阿久根)氏初代・成兼の弟が、薩摩川内市の湯田城を治めたことから始まる。戦国時代には湯田兵庫成重が、阿久根市大川の上之城・下之城を拠城とした。下之城跡に移築された石塔群は湯田家の墓石群と言われている。



33

こうしんとう つか  
庚申塔(塚)(瀬之浦他)

庚申塔は、庚申信仰《中国の道教に由来する干支の一つの庚申(かのえさる)に関する民間信仰》に基づいて建てられた石塔である。このような庚申塔が市内に数箇所残っている。



32

34

せつかんとう  
石敢當(山下他)

道路の辻の角に建てられた魔よけの石塔。元々は中国の風習で、日本国内では沖縄などに多くみられる。「石敢當」の文字が刻まれており、阿久根市内に数箇所残っている。



35

ひ の かみぞう  
火之神像(市街地)

災害防止とその祈願のために造られたもので、上野・本町を中心に市街地にいくつか見られる。



36

ちんでんしよれいとう  
沈溺庶霊塔(下村)

寛政11年(1799年)3月10日、阿久根大島の金毘羅祭りに行った脇本郷衆ら35名のうち29名が、帰路の途中の天候悪化により船が転覆して水死してしまった。

この石塔はその死者を弔うために建てられた慰霊塔である。





37

せつけいおしょう はか  
**37 雪溪和尚の墓(尻無・松岡神社)**

長寿寺の僧雪溪は、薩州島津家の重臣、有馬氏の一族である。和尚は、数十年も続く東郷波谷一族と薩州島津家との争いを無益なものとして、東郷側との和議を図ったが聞き入れられず、弘治3年(1557年)11月の大川の戦いで薩州家側の多くの武将と共に戦死した。



38

ちゅうまんおおくら はか  
**38 中馬大蔵の墓(瀬之浦)**

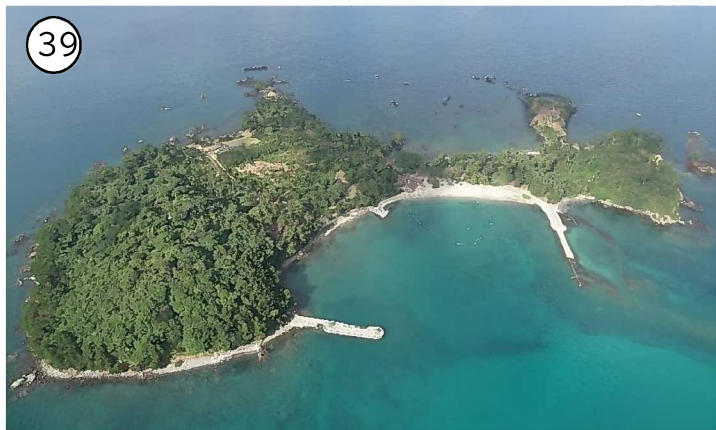
中馬大蔵は、力量すぐれ、朝鮮の役や関ヶ原の戦いで目ざましい働きをした戦国武士であり、境目警備として出水郷西目村(脇本地区)の警備の物主(隊長)として瀬之浦に住んだ。大変な豪傑でいくつもの逸話が残っている。

## 名 勝 地

あくね おおしま ははこじま  
**39 阿久根大島(母子島)**

「三國名勝図會」(天保14年(1844年)にも記載され、古くからの名勝地として知られる。大島の鹿は、元々、薩摩藩2代藩主島津光久によって放たれたといわれ、のちの大正時代に馬毛島より6頭を放ち、120頭に至る。大島にある金毘羅神社は、天明7年(1787年)藩主島津重豪により勧請されたと言われる。

現在「日本の快水浴場百選」や「日本の名松100選」に選ばれている。



39



阿久根は海や山などに自然の見どころがいっぱいだよ!



40

くろのせと  
黒之瀬戸

阿久根と長島の間を横たわる海峡で、古くから「はやひとのきつ  
まのせと」として知られ、『万葉集』のほか、ここを詠んだ多くの歌  
がある。

『隼人の 薩摩の瀬戸を 雲居なす  
遠くも吾は 今日見つるかも』長田王  
『隼人の 瀬戸の巖も 鮎走る  
吉野の滝に なほしかずけり』大伴旅人



40

41



41

いんようせき  
陰陽石(いこいの森) 写真は陽石

市民いこいの森公園内に、陰陽石がある。高さは陰石が15m、  
陽石が12mにもおよぶ巨石で、ともに縁結びの神、子宝を授かる  
神などと親しまれている。

## 阿久根七不思議

42



42

ひかる ぜ とばしら  
光 礁(戸柱)

戸柱山前の海岸にある大きな岩礁。不思議な光を発するので、  
光礁と呼ぶようになったと伝えられる。沖合に大島・桑島などが  
浮かび、素晴らしい景観を呈する。

43

てんぐ あしあと おとな あしあと  
天狗の足跡(大人の足跡) (波留)

八幡神社の大石に、長さ60cmほどの足形の凹みがある。  
伝説によると、この地方に住んでいた大人(天狗)が、村人にけし  
かけられて阿久根大島まで跳んだ時にできた足跡と言われる。



43

阿久根には古くから伝わる『阿久根七不思議』があり、江戸時代後期に編纂された「三国名勝図會」にも、「阿久根七奇」として「光礁」「隔岡の塩田」「天狗(大人)の足跡」「黒神岩」「岩船(伝説)」「佐潟の洞窟(小潟崎穴)」「尻無川」の七つが紹介されている。



44

44 おかごし えんでん  
隔岡の塩田(湯)

江戸時代初期から、湯地区一帯は海岸から遠く離れているにもかかわらず地底から塩水が湧き、良質の塩がつくられる塩田であった。伝説によると旅の僧(弘法大師ともいわれる。)によって製塩法を教えられたという。現在、塩釜神社が祀られている。



45

45 くらかみいわ  
黒神岩(波留)

海岸線から 500~600m 程離れたところに、海岸に見られるような巨大な岩が存在する。この岩を黒神岩と呼ぶが、岩には貝の化石が付いていることから昔このあたりが海であった頃の名残と言われている。現在では公園となり、周囲も住宅が建ち並んでいる。



46

46 いわふね でんせつ  
岩船(伝説) (折口) 写真は鍋石 なべいし

時代は不明であるが、昔、戦に敗れ、丹波の国から逃げてきた船が、舵が折れ、折口川河口に座礁したものが岩になったと伝えられる。現在は打ち寄せた砂で埋没しているが、石船神社が残る。

梶折鼻、鍋石、筒田、餅井などは、この岩船伝説に由来した地名である。



47

47 さがた どうくつ さがたききつ  
佐潟の洞窟(小潟崎穴) (佐潟)

東シナ海に突き出た佐潟半島の中ほどにある洞窟。入口は狭く、人がようやく屈んで通れるほどだが、中は広がっている。洞窟は数条に分かれ、コウモリなどが生息する。

伝説によるとこの洞窟は、甕島に続いているとも言われる。



48

48 しりなしがわ  
尻無川(尻無)

尻無地区を縦断して流れる川の河口は砂礫で埋まり、塞がってしまっている。

このようなことから、尻の無い川と呼ばれ、付近の集落も尻無という。

# そ の 他

49



49 いしばし 写真是有田橋  
ありたばし

阿久根市内には大正～昭和の初め頃に造られた6つの石橋(尾崎橋、有田橋、弓木野橋、北崎橋、中津川橋、牛ノ浜橋)が残っている。

尾崎橋は、大正6年(1917年)、尾崎の石工、尾崎清貴を中心に造られたものである。

50



50 ひな女祭り(佐潟)  
じよまつ

旧暦4月8日に女の子を後ろ向きに背負って踊る祭りである。古く江戸時代からの伝承で、初孫の幸せを祈って披露したと伝えられ、このまつりは、別名「いのち長」とも呼ばれ、子孫繁栄の願いを込めたものと言われている。

52



52 アコウ群落(脇本浜)  
ぐんらく

暖地の海浜地に自生する常緑の喬木である。市内にあちこちで見られるが、脇本浜のものは木根がからまり、何本も交わりながら群生している。

51



51 やまだがく  
山田楽(古里他)

関ヶ原の合戦の勇将で、出水の名地頭と言われた山田昌厳の、出征から凱旋までを取り込んだ踊りと言われる。

脇本のいくつかの集落に残り、現在、脇本小学校、三笠中学校でも伝承されている。

# 市立郷土資料館所蔵物



53

## 53 ていふくまる せんがく 貞福丸の船額

江戸時代末期、河南源兵衛所有の貿易船の船額として使用された物である。船額をはじめ、河南家関係の船舶資料等が多く展示されている。



54

## 54 せかいちず 世界地図

河南治助が慶応3年(1867年)に写した手書きの地図で、この頃すでに世界に目を向けていた一人の阿久根の経済人の姿を見ることができる。また、幕末の薩摩国の国地図も残っている。



55

## 55 かく ねんぶつかんけいしりょう 隠れ念仏関係資料

江戸時代、薩摩藩において一向宗(浄土真宗)は禁止されていた。しかし、人々は様々なかたちで信仰を続けてきた。それら隠れ念仏関係資料である。



56

## 56 らいさんよう かけじく 頼山陽の掛軸

頼山陽直筆といわれる。頼山陽は文政元年(1818年)阿久根に一泊し『阿嶮嶺』の詩を作った。  
(⑤参照)

番号	文化財	番号	文化財	番号	文化財
	県指定文化財	22	木造阿弥陀如来像	40	黒之瀬戸
1	神舞	23	久保下の田の神像	41	陰陽
2	ハマジンチョウ	24	脇本古墳群出土遺物		阿久根七不思議
3	阿久根砲	25	小木原三楽の墓	42	光礁
4	脇本古墳群(糸割洲古墳群)	26	松木弘安(寺島宗則)旧家	43	天狗の足跡(大人の足跡)
5	牛之浜海岸		史跡関係	44	隔岡の塩田
6	カスミサンシヨウウオ	27	津口番所跡	45	黒神岩
7	光礁と五色浜	28	田代鉦山跡	46	岩船(伝説)
8	西徳寺山門(鍾楼付)	29	林少佐戦死の地	47	佐瀉の洞窟(小瀉崎穴)
	市指定文化財	30	本土防陣地跡	48	尻無川
9	八郷のヘゴ		石塔類		その他
10	脇本窯跡	31	莫祢(阿久根)氏の供養塔	49	石橋
11	脇本古墳群(新田が丘古墳群)	32	湯田家石塔群	50	ひな祭り
12	天狗山の磨崖仏	33	庚申塔(塚)	51	山田楽
13	空順法印像	34	石敢當	52	アコウ群落
14	南方神社の石鳥居	35	火之神像		市立郷土資料館所蔵物
15	河南文書	36	沈溺庶霊塔	53	貞福丸の船額
16	沼田文書	37	雪溪和尚の墓	54	世界地図
17	鳥越古墳群1号墳石室	38	中馬大蔵の墓	55	隠れ念仏関係資料
18~21	南方神社(諏訪神社)宝物「鬼神面」「翁面」「素文鏡」「木造の狛犬」	39	名勝地	56	頼山陽の掛軸
			阿久根大島(母子島)		



# 阿久根の歴史

	西 暦	郷 土 の 動 き		西 暦	郷 土 の 動 き
古墳時代	300	鳥越古墳群が出現した。(1号)	江戸時代	1818	頼山陽が阿久根に来て「阿嶋嶺」の詩をつくった。
	400	同(2-6号)		1832	のちの外務大臣、寺島宗則(松木弘安)が脇本で生まれる。
	500	脇本古墳群が出現した。 (糸割瀨1-2号) (新田丘1-4号)		明治時代	1869
奈良	720	大伴旅人、黒之瀬戸の歌を詠む。	1877		西南戦争で高松地区が戦場となる。
	平安時代	900	莫祢駅が設けられた。		1889
1024		平季基が島津荘を開拓。子の兼輔が神崎氏を称す。	1912	中村静興が温泉発掘に成功した。	
1124		神崎太郎成兼が、平氏のもとで莫祢院司になり莫祢氏を称す。 賀喜城ができた。	大正	1913	電話が開通した。 西徳寺山門(鍾楼付)ができた。
鎌倉時代	1197	莫祢氏3代成光が鎌倉幕府の御家人になる。 この頃、莫祢(阿久根)城を築城する。		1918	市街地に電灯がついた。
	1262	莫祢氏5代成友が折口・多田を、後に川内長崎も領土に加える。 この頃、川内長崎の南方神社を波留に勧請する。		1922	鉄道が開通し、阿久根・牛之浜駅ができた。 (1927年全線開通)
	室町時代	1451	出水に薩州島津家をおこした。 「莫祢」を「阿久根」に改めた。 島津國久により蓮華寺を中心に学問が栄える。 (文明聚分韻略)	1923	村立阿久根高等女学校ができた。
1547		田代の戦いがおこった。 島津實久と阿久根12代良正が南方神社を再興する。	1924	下出水村を三笠村に改めた。	
1557		大川の戦いがおこった。	1925	阿久根村が町制を施行した。	
安土・桃山	1561	ポルトガル船が阿久根に来航した。	昭和	1926	阿久根大島に馬毛島の鹿を放った。
	1568	深迫の戦いがおこった。		1945	戦火により市街地が焼失した。
	1586	関白豊臣秀吉の九州征伐。		1948	大丸に阿久根町役場が新築された。
江戸時代	1593	薩州島津家領地が没収された。 朝鮮出兵(文禄の役) 阿久根氏離散	1949	下村に三笠村役場が新築された。	
	1615	一国一城令により阿久根外城制度が始まる。	1952	阿久根市が市制を施行した。 市章を制定した。	
	1659	折口伊兵衛尉重芳が焼酎造りを始めた。	1953	三笠町が町制を施行した。	
江戸時代	1660	島津光久が阿久根大島に鹿を放つ。	1955	三笠町と合併した。	
	1690	河南源兵衛の町造りもあり、地頭館を山下から栄町に移転。	1957	浜町の海岸で「阿久根砲」が発見された。	
	1750	南方神社の鬼神面が作られる。	1971	市の木「阿久根ボンタン」が指定された。	
江戸時代	1772	謝文旦が阿久根に漂着し、朱鸞、白鸞(ボンタン)贈った。	1974	黒之瀬戸大橋が完成した。	
	1810	河南源兵衛、伊能忠敬測量隊を迎える。	1978	鶴見町に阿久根市役所が新築移転した。 阿久根市民憲章が制定された。	
	平成		1989	鳥越古墳発見	
1995			横座トンネルが開通した。		
1997			鹿児島県北西部地震が発生した		
令和		2004	肥薩おれんじ鉄道が開業した。		
		2008	阿久根大島海水浴場・脇本海水浴場が「快水浴場100選」に選定された。 阿久根市を記録的な豪雨が襲った。 (24時間雨量541ミリを記録)		
		2014	牛之浜海岸が県指定文化財(名勝)として桜島に次いで指定を受けた。		
令和		2020	光礁と五色浜が県指定文化財(天然記念物)として指定された。		
		2022	西徳寺山門(鍾楼付)が県指定文化財(建造物)として指定された。		

## 阿久根の地名の由来

※平安時代の中頃(1120年頃)鎮西平氏の流れをくむ大宰大監平季基を祖先とする神崎氏が、この地方を領し「莫祢氏」を名乗る。鎌倉時代になると「莫祢氏」とも書くようになった。

※宝徳3年(1451年)薩州島津家の創設と同時に、莫祢を「阿久根」に改めた。

※文禄2年(1593年)薩州島津家が領地没収されると同時に、阿久根氏一族は各地に離散し、阿久根の地名だけが残った。